

PRESS RELEASE

2008年2月29日
株式会社 DELTA i.D.総合研究所
東京都千代田区永田町 2-4-11
代表取締役 石澤 一未

安全・快適分野のカーエレクトロニクスの最新市場動向

調査概要

DELTA i.D.総合研究所では、安全・快適性を満たすカーエレクトロニクスに関して、運転支援システム市場を中心とした産業調査レポートをとりまとめた。国内・EU・北米市場での需要ニーズ、安全技術に関する最新有力技術文献を中心に調査、解析し独自の技術予測を実施した。これらを総合的に分析し、地域別に2005年～2015年の市場規模推移を推計した。

- * 調査対象：自動車メーカー、関連システム・部品メーカー、関連企業・団体ほか
- * 調査期間：2007年10月～2008年1月
- * 調査方法：弊社専門研究員による直接面接取材を基本とし、電話・ファックス・e-mailによる調査を併用。
- * 資料名：「2008年 安全・快適性を指向したカーエレクトロニクスの将来展望」

調査結果サマリー

- ・レーダやカメラなどセンサ技術の開発に伴い、周囲の情報を捉えドライバーの負荷を軽減させる自立型運転支援システムが、高級車から搭載が始まっている。アダプティブクルーズコントロールの国内市場での搭載率は、2007年に0.6%程度(3.4万台)であるが、2015年には8.7%(40万台)まで上昇するものと予測される。
- ・また、ドライバーの視界情報を支援する機能では、ヘッドアップディスプレイや、ナイトビジョンなどがあるが、技術面の先行に搭載に結びついていない感がある(2007年の国内市場におけるヘッドアップディスプレイは、搭載率は0.1%程度(約6千台)に過ぎない)。しかし、安全な運転環境に対する貢献度は高く、上記の運転支援システムの普及後に、本格的な拡大が期待される。

資料体裁

発刊日：2008年1月31日 体裁：A4判 203ページ
定 価(税込)：157,500円

この件に関するお問い合わせは

(株)DELTA i.D.総合研究所

TEL：03-6419-8566

FAX：03-6419-8567

E-Mail：info@deltas.jp

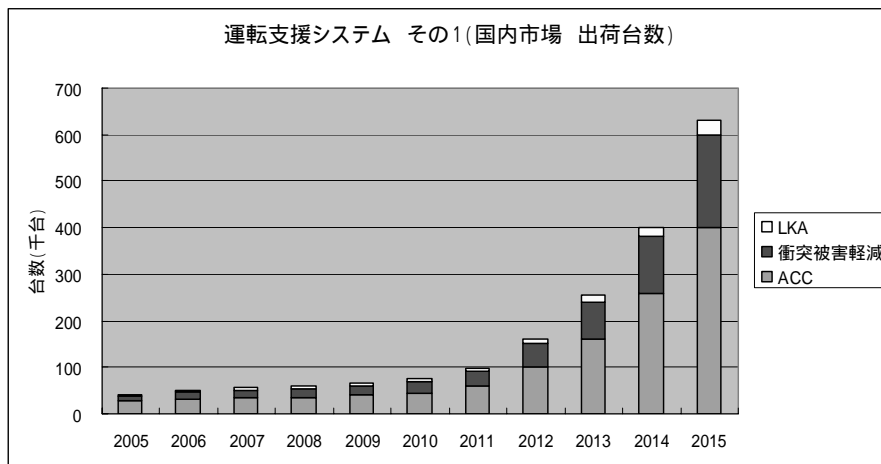
調査内容の解説

安全・快適性を指向するカーエレクトロニクスの現況と今後の動向

市場概況

運転支援システム

ABS の搭載率は高水準にあり、ほとんど全ての車両に標準装備されつつある。次に、横滑り防止装置（ESC）が続くものと推定される（国内市場のニーズというよりは、欧米での規制によるニーズに牽引された結果として）。一方、アダプティブクルーズコントロール（ACC）、衝突被害軽減ブレーキ、レーンキープアシスト（LKA）は、これらに比べると搭載台数は、まだまだ少ない。ただ、搭載する自動車メーカー、車種は確実に増加しており今後の増加が期待され、2012 年ごろから急速な普及へと移行していくものと思われる。まずは ACC の搭載が標準装備へと移行し、衝突被害軽減ブレーキのオプション設定が増加、その搭載も進むものと思われる（システム構成が類似しているため、ACC が標準搭載となれば、衝突被害軽減ブレーキの搭載もしやすくなり、価格の低下にも繋がり、普及への後押しにもなるものと推察される）。

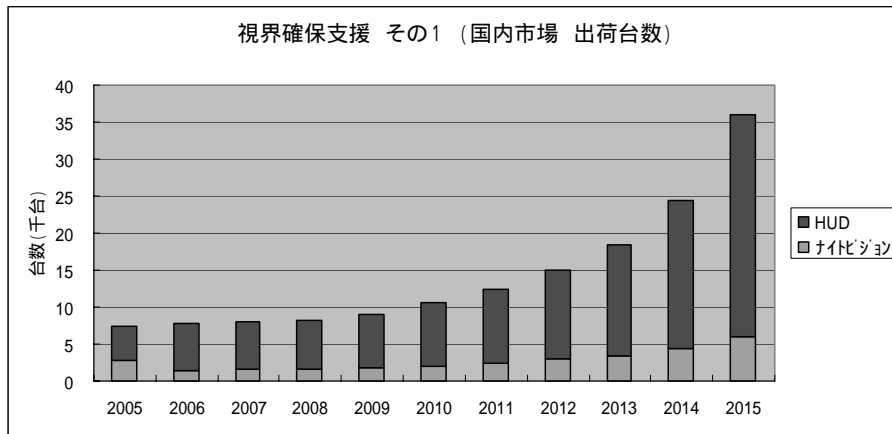


(DELTA i.D.総合研究所推計)

視界確保支援システム

現在では、カーナビに牽引されバックモニタが普及している。機能自体も視覚的に確認できるものであり、今後も順調に拡大していくものと思われる。最近では、複数のカメラによる画像を統合し、車両周辺をカバーするモニタリングまで可能となってきた。アダプティブフロントライティングシステム（AFS）も小型化や価格の低下も進み、徐々に普及していくと予測される。

ヘッドアップディスプレイ（HUD）については、運転視線システムなどの安全技術の搭載が進み、その表示機能として利便性が再認識され、2010 年ごろから普及速度の向上へと繋がっていく。ヘッドアップディスプレイが増加し、夜間も同様の機能を果たすことが必要となり、ナイトビジョンへの普及へと繋がっていくものと見られる。

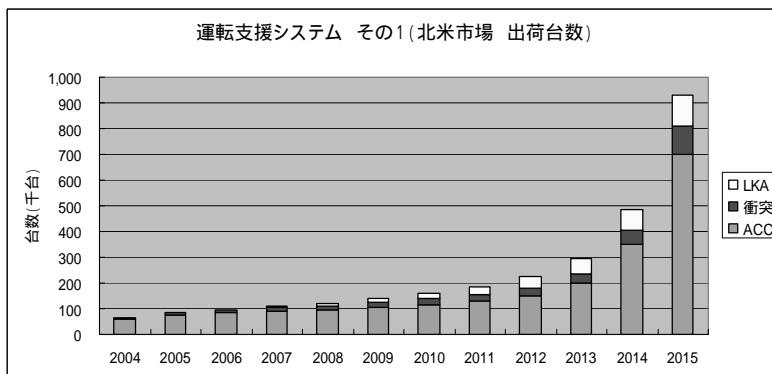
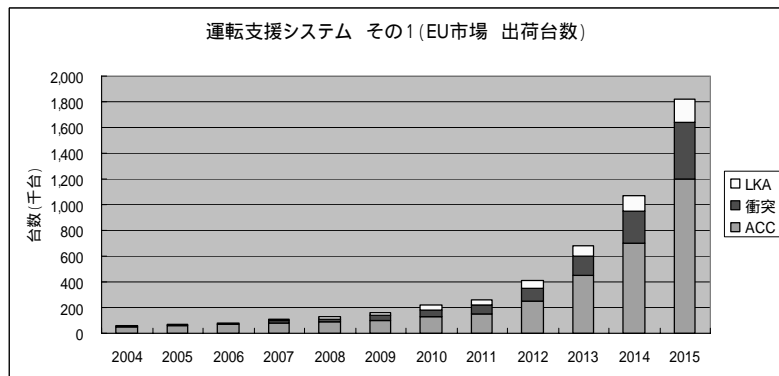


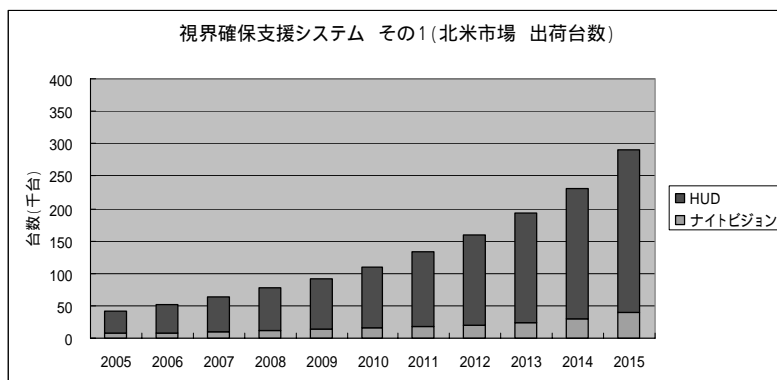
(DELTA i.D.総合研究所推計)

北米・EU 市場の動向

運転支援システムでは、国内市場がやや先行している感がある。ただし、ESC が両地域とも規制等により搭載が進んでいることを勘案すれば、ACC など次の安全対策として取り上げられる可能性も高い。

一方、視界確保支援システムでは、国内市場と動向がやや異なる。ヘッドアップディスプレイなどは国内市場よりも、北米・EU 市場が先行している。一方で、国内市場で普及しているバックモニタは、北米・EU の順に拡大していくものと見られ、本格的な普及はまだこれから。

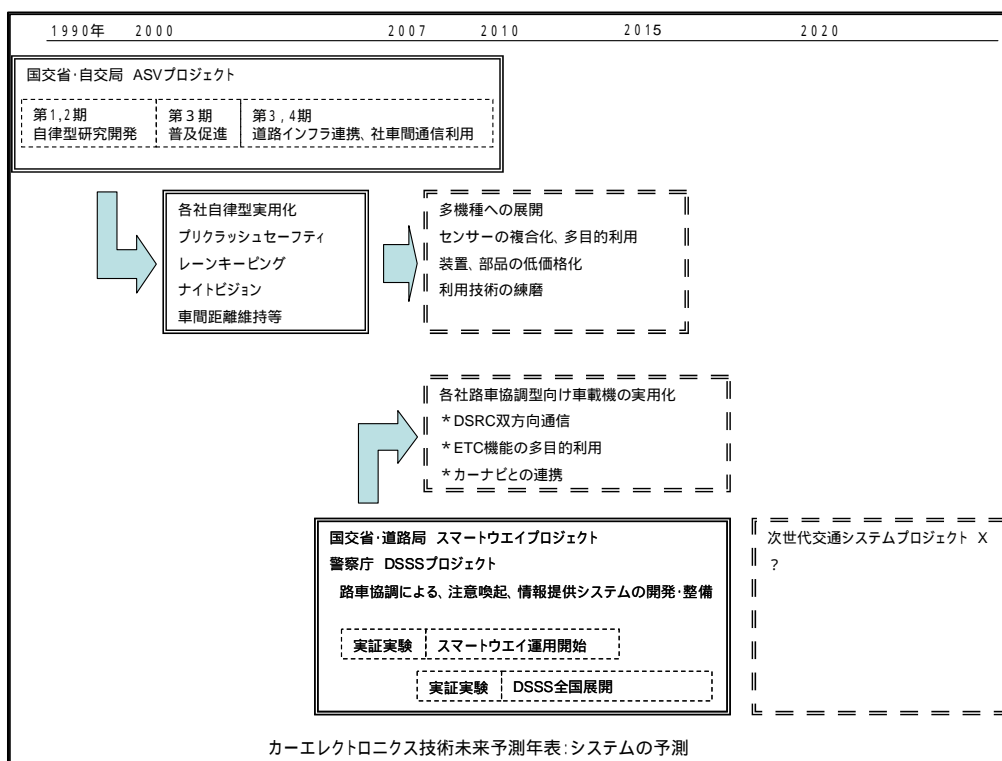




(DELTA i.D.総合研究所推計)

技術予測

本資料では、市場調査だけでなく、最新の技術論文等の文献解析による技術予測も行っている。以下に技術予測を示す。



2015年頃までの動きとしては、各種技術が高級車から普及車へ拡大、センサの複合化や多目的利用、装置、部品の低価格化および高信頼性化へのより高度な要求、路車協調システム等との共生等が進むものと思われる。

環境への配慮と同様に安全技術にも各社ともに注力している。技術面が先行していた感がある予防安全技術であるが、近い将来、認知度の向上と量産による価格の低減化、さらには路車協調技術の実用化と相まって、より安全な車社会の到来が期待できるであろう。

会社概要

株式会社 DELTA i . D . 総合研究所

(株式会社デルタ・アイ・ディ総合研究所)

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-4-11 フレンドビル 7F

代表取締役社長 石澤 一未

設立：2007年7月

資本金：1億3,030万円

事業内容：産業全般の総合的調査

業界情報データベース事業 (ISGR 事業)

自主企画調査資料発刊

分野別受託調査

各種 コンサルティング

セミナー・各種研修、書籍発刊等

URL：www.delta-id.com/